

## 研究課題「間葉系幹細胞関連遺伝子の泌尿器癌における診断・効果予測マーカーとしての病理組織学的検討」に関する情報公開

### 1. 研究の対象

1996年7月1日から2023年6月30日までの間に、腎細胞癌、尿路上皮癌、前立腺癌、もしくは精巣腫瘍の診断および治療のために手術を受けられ、手術後に免疫チェックポイント阻害剤による治療を受けた方、もしくは受けられる方。

### 2. 研究目的・方法・研究期間

悪性腫瘍は現在でも日本人の死因の第1位であり、早期段階での確実な診断に基づく適切な治療が必要とされています。この中で腎細胞癌および尿路上皮癌においては、この10年間で免疫チェックポイント阻害剤のような新たな治療薬が登場したことで、生存率の改善が期待されています。しかしながら、全ての人に奏功するわけではなく、どのような人に使用すれば効果的であるのかを判断するマーカーの開発が求められています。

これまで私たちはマウスおよびヒト細胞株を用いた研究で、「間葉系幹細胞(かんようけい かんさいぼう)」に関連するタンパク質が悪性腫瘍に発現し、その悪性度に関与することを明らかとしてきました。しかし、ヒトの悪性腫瘍組織における「間葉系幹細胞」に関連するタンパク質の発現に関する評価はほとんどなされていないのが現状です。

本研究では泌尿器癌における「間葉系幹細胞」に関連する遺伝子の発現と臨床的、あるいは病理学的な特徴、治療成績あるいは予後との関連を検討することで、これら泌尿器癌の診断および治療の新しい手法が得られる可能性があると考えています。

当院もしくは共同研究施設で1996年7月1日から2023年6月30日までの間に腎細胞癌、尿路上皮癌、前立腺癌、もしくは精巣腫瘍の診断および治療のために採取された病理検体の一部を用いて、臨床所見・組織学的所見・画像所見・腫瘍の進行度・治療後無再発生存期間・全生存期間・免疫チェックポイント阻害剤の治療効果と「間葉系幹細胞」に関連する遺伝子の発現の相関関係を検討します。

また、今後新しいマーカー等が発見された場合、追加検討を行う場合があります。

この研究の研究期間は、実施承認日から2023年12月31日までです。

### 3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：年齢、性別、病歴、再発の有無 等

試料：血液、手術材料、剖検材料、生検組織。

### 4. 外部への試料・情報の提供

名古屋大学医学部附属病院および共同研究施設において集められたデータおよび資料は、採取時に連結可能匿名化を行ったうえで名古屋大学大学院医学系研究科に集められ、解析されます。運搬や対応表の保管・管理は、本学の個人情報管理者が直接行います。

## 5. 研究組織

本研究は、名古屋大学より発案した多施設共同研究です。

研究責任者：

名古屋大学医学部附属病院 泌尿器科・講師・松川 宜久

研究分担者：

名古屋大学大学院医学系研究科 腫瘍病理学・教授・榎本 篤

名古屋大学大学院医学系研究科 腫瘍病理学・講師・三井 伸二

名古屋大学大学院医学系研究科 腫瘍病理学・助教・白木 之浩

名古屋大学医学部附属病院 化学療法部・医員・宮井 雄基

名古屋大学大学院医学系研究科 泌尿器科学・大学院生・大脇 貴之

共同研究者：

独立行政法人地域医療機能推進機構 中京病院 泌尿器科・部長・辻 克和

医療法人豊田会 刈谷豊田総合病院 泌尿器科・部長・近藤 厚哉

## 6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒466-8550

名古屋市昭和区鶴舞町 65

名古屋大学大学院医学研究科・泌尿器科学・大脇 貴之

TEL: 052-744-2985

研究責任者：名古屋大学医学部附属病院 泌尿器科・講師・松川 宜久